

カトリック六甲教会 教会報

2012

8

No.488

韓国の教会に学ぶ

助任司祭 片柳 弘史



7月3日から6日にかけて、イエズス会韓国管区の叙階式に出席するため、ソウルを訪れた。この旅のあいだ、教会の関係者と会うたびに必ず一つと同じ質問をすることになっていた。それは「なぜ、韓国のカトリック教会には600万人もの信徒がいるのか。どうして総人口の30%がキリスト教徒になったのか」ということだった。韓国の総人口が4800万人だから、その12.5%がカトリック教徒。さらにプロテスタント教徒が800万人いるから、韓国では総人口の約30%がキリスト教徒ということになる。日本は信徒総数45万人で総人口の0.3%。プロテスタント教会を合わせても1%。同じ漢字文化圏に属するお隣同士でありながら、この違いは一体どこから生まれてきたのか。それを知りたかったのだ。

何人かの人から返ってきた答えは、日本軍占領期の反日闘争の中でプロテスタント教会が、軍事独裁政権期の民主化闘争の中でカトリック教会が信徒数を拡大したというものだった。日本軍の占領期、プロテスタント教会は、ミッション・スクールを拠点として反日闘争の先頭に立ち続けた。そのために国民の信用を勝ち得、多くの人々がプロテスタント教会に集まったという。カトリック教会は、独立後の軍事独裁政権期に起こった民主化闘争の中で、民主化を求める学生たちの側に立って戦った。軍事政権に追われて明洞大聖堂に逃げ込んだ学生たちを命がけで匿い、武装機動隊の前に立ちはだかって「彼らを逮捕するなら、わたしを殺してからにしろ」と言い放ったキム・スーハン枢機卿はそのようなカトリック教会のシンボルとも言うべき人物だ。

この説明から、韓国でキリスト教が拡大したのは、日常生活が根底から覆されるほどの社会不安の中で、人々がキリスト教に心の拠り所を見出したからだという答えを出してもいいかもしれない。日本でも戦国時代には、大きな社会不安の中で、宣教師たちの人徳によって信用を勝ち得たキリスト教が人々の心に入り込んで行った。韓国では、日本軍の占領やその後の朝鮮戦争、軍事独裁政権の支配などの中で、戦国時代にも匹敵するほどの社会不安が続き、その中で信仰の実践によって信用を勝ち得たキリスト教が人々の心のよりどころになっていったのだと考えられる。

わたしたちは、韓国教会のこの歴史から何を学ぶことができるだろうか。日本にも社会不安がないわけではない。年間3万人を超える自殺者、続発するいじめ事件、社会保障制度の崩壊など深刻な問題はいくつもあり、その中で多くの人々が苦しんでいる。もし日本の教会が本当に神の愛を実践したいのなら、一人でも多くの人々の魂を神の国へ招きたいのなら、苦しんでいる彼らのもとに出かけて行って信仰の証を立てるべきではないだろうか。苦しんでいる人々の側に立って、「あなたたちの命を守るためなら、自分の命などどうなってもいい」と叫ぶキム・スーハンが日本にも必要ではないか。韓国教会の信徒数に驚き、ため息をつくばかりではなく、わたしたちもできることから何かを始めていきたいと思う。

『祈りの道場』(6月30日)



7月で大阪に単身赴任して1年になる。週末東京に帰らないときは時間がたっぷりあるので、鎌倉黙想の家から来られた英神父の「祈りの道場」に参加した。4つのテーマで英神父のお話と黙想が行われた。

最後のテーマは「この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはいけません。(ガラテア 5-1)」「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。…『隣人を自分のように愛しなさい』(ガラテア 5-13)」自由についての話であった。

さまざまなストレスに疲れ切っている日常から離れて、主聖堂で一日過ごし、聖霊の導きにより心が癒されることができ、有意義な一日であった。

田丸 (イグナチオ教会所属)

6月30日の「祈りの道場」に初めて参加させていただきました。

今回のテーマは「アッバ、父よ。」という祈りの意義と、その祈りによって得られる自由についてのお話でした。こんな風に纏めてしまうと単なる「お話」のように聞こえますが、実際は約15分の講話が4回とそれに続く45分の黙想という形式で、あくまでも主になるのは神様との対話です。普段、限られた時間の中では、祈っているはずが、最初から最後までひとりで喋っていたことに気づき、がっかりすることがしばしばですが、今回のようなリズムですと、ゆっくりと神様の眼差しのもとに身を置くことができ、普段よりずっと寡黙な、けれども内容の濃い神様との時間を過ごすことができました。英神父様、ありがとうございました。次回(11月3日)も是非、参加させていただきたいと思えます。

荏原

~~~~~

### 《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

#### 中高生会

8月14日(火)~16日(木) キャンプ  
8月18日(土) 納涼の夕べ (第三会議室)

#### 教会学校

8月9日(木)~12日(日) キャンプ  
9月8日(土) 2学期始業式

#### 社会活動部

次回連絡会  
9月7日(金) 初金 10時ミサ後

#### 宣教部

8月25日(土) 10:00 部会

#### 典礼部

8月26日(日) 朗読奉仕者の勉強会  
11:30~13:00(予定) 於:主聖堂  
内容:片柳神父様のお話と朗読実践

#### 広報部

9月1日(土) 教会報9月号発行

#### 施設管理部

8月26日(日) 部会



《 お知らせ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

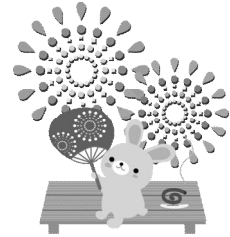
8月11日(土) 10時 炊き出し(小野浜グラウンド) 現地でのお手伝いです。  
COME & SEE 小野浜グラウンドにて、学生ボランティアとおじさん達と共に作ります。

※8月の手芸、ふれあい広場、ともしびケーキ作りは、お休みです。

★養成部より★

8月12日(日)13:30~14:30 平和旬間合同礼拝 於:主聖堂

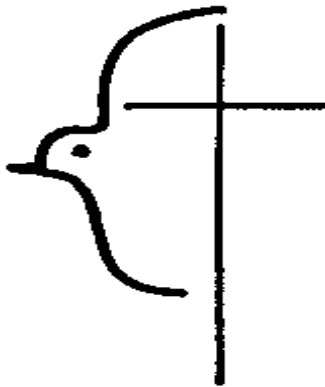
8月25日(土) 7:45~17:00 聖書朗読リレー 於:小聖堂



神戸地区平和旬間行事

8月4日(土)13時~18時  
愛徳学園講堂および校庭にて開催

今年の平和旬間行事では、8月2日から5日まで、福島の子もたちを神戸に招いて行われる「ふっこうのかけ橋」プロジェクトに合わせて福島のお母さんたちの話をうかがい、福島の子もたちと共にミサを捧げます。どうぞ皆様ご参加ください。



【内容】

- ① DVD上映「つるにのって とも子の冒険」
- ② 講演  
★「東日本大震災と東京電力第一原子力発電所の事故から学んだ事」  
Sr. 熱海紀子(コングレガシオン・ド・ノートルダム会)
- ★「放射能汚染の現実について」のおはなし  
稲葉景(福島から神奈川に避難中のお母様)
- ③ 子どもと共に奉げる平和祈願ミサ
- ④ ふれあい祭り 各小教区からの出店(綿菓子・宝つり等)

詳しくはポスターをご覧ください。

~~~~~



納涼の夕べ

8月18日(土)17時ミサ後

テーマ「心をつないで、手をつないで」

今年も地区会が中心となって開催されます。
夏の夜のひとときを一緒に楽しみましょう。
ご家族・ご友人を誘って、ご参加ください!

♪♪♪♪ 聖母被昇天を祝うオルガンメディテーションのご案内♪♪♪♪

24年度のオルガンチーム活動として、復活祭、被昇天、降誕祭の三度のお祝日に、少しずつ趣向を変えたメディテーション(お祝に因んだ曲を聴き、喜びと感謝の黙想祈りに役立てて頂く)を企画実施しようとして居ります。

御復活祭に続きまして、8月15日(水)10時の聖母の被昇天のミサ後に「聖母マリアへの祈りと音楽」を次のプログラムに沿って行ないます。今回お招きする方は、カトリック香里教会のソプラノ歌手で天使の様な声の持主です。ご期待下さい。
オルガンチーム 馬場

聖母被昇天 オルガンメディテーション

～聖母マリアへの祈りと音楽～

- 日時： 2012年8月15日(水) 11:30開始 12:20分終了予定
- 場所： カトリック六甲教会 主聖堂
- 企画進行： オルガンチーム
- 演奏： オルガン：三浦優子(カトリック六甲教会)
ソプラノ：谷崎加奈(カトリック香里教会)
- プログラム：



- 1, Ave Maris Stella 「めでたし、海の星」
Girolamo Frescobaldi G. フレスコバルディ (org.)
Gregorian chant グレゴリオ聖歌 (sop.)
Marcel Dupré (org.) 約10分
- 2, Salve Regina 「幸いなるかな、女王」
Gregorian chant グレゴリオ聖歌 (sop.)
Marcel Dupré マルセル・デュプレ Op. 45 No. 1 (org.) 約8分
- 3, Ave Maria
Gregorian chant グレゴリオ聖歌 (sop.)
グノー、サン・サーンス、カッチーニなどから(いずれか1曲) 約5分
- 4, Schmücke dich, o liebe Seele BWV 654 「装いせよ、おお、わが魂よ」
J. S. Bach J. S. バッハ (org.) 約7分30秒
- 5, Passacaglia in c BWV 582 パッサカリアとフーガ
J. S. Bach J. S. バッハ (org.) 約14分



教会報9月号の発行は、9月2日(日)です。 編集会議8月26日(日)です。 記事原稿は、8月19日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松 村 信 也 編 集 広 報 部
--	--